

令和元年8月

魚津市定例記者会見



日時：令和元年8月1日（木） 午後1時00分～午後2時00分

場所：市役所第一会議室

報道出席者：北日本新聞社、富山新聞社、朝日新聞社、読売新聞社

NHK、チューリップテレビ、NICE TV、ラジオミュー

市当局出席者：市長、副市長、教育長、企画総務部長、民生部長、産業建設部長、
企画政策課長

1. 市長あいさつ

- ・昨日はクマ捕獲の騒動があり、記者の皆様方にはいろいろと取材等でご協力をいただきました。ご迷惑をおかけした面もあったかと思えます。感謝申し上げます。今後に向けてしっかりと対応を考えていきたいと思えますのでよろしくお願い致します。

2. 市長からの発表事項

(1) 埋没林博物館3Dアート展示と体験ワークショップ開催について

- ・埋没林博物館の新たな魅力作りとして、3Dアートを活用した常設展示を本日（8月1日）から始めた。併せて、この3Dアート作家の永井秀幸氏によるワークショップを8月12日に開催する。

（説明内容は別添プレスリリースのとおり）

(2) 魚津市パークマネジメント基本方針を策定しました

- ・市内の都市公園について、市民ニーズをしっかりと把握し、より多くの方に利用していただける特色ある公園づくりを進めるために基本方針を策定した。

（説明内容は別添プレスリリースのとおり）

(3) 「ふるさとワーキングホリデー」事業の実施について（現状）

- ・概要等は7月定例記者会見でリリース済み
- ・現在、受入確定者は4名

（プレスリリース上は調整中の2名は、記者会見時点では確定となった。）

説明内容は別添プレスリリースのとおり）

3. 教育委員会及び各部長からの説明事項

〈教育長〉

- 魚津市プログラミング教育講演会（8月1日 埋没林博物館）
- 井原市友好親善都市児童交流事業（第36回）及び
北海道東川町からの魚津市伝統芸能視察研修について（8月3日～8月5日）
（説明内容は別添プレスリリースのとおり）
- 第33回全日本大学女子野球選手権大会の開催と旧片貝小学校を活用した
全日本大学女子野選手権大会参加学生及びOGの受け入れ事業について
（説明内容は別添プレスリリースのとおり）（8月23日～8月28日）
- たてもん祭りにおける英語通訳ボランティア要請研修の実施について（8月3日）
（説明内容は別添プレスリリースのとおり）

〈企画総務部長〉

- 魚津市行財政改革説明会を開催します
・8月25日（日）新川文化ホール、8月29日（木）ありそドームの2回開催
（説明内容は別添プレスリリースのとおり）

〈民生部長〉

- 魚津市戦没者追悼式（8月8日 新川文化ホール）
- 魚津市障害者体育大会（8月31 ありそドーム）

〈産業建設部長〉

- 「20歳の挑戦事業」を実施します（8月22日～8月25日）
・参加学生 東洋大学経済学部 根本祐二ゼミナール生 12名
・本年度が最後の実施となる予定。
（説明内容は別添プレスリリースのとおり）
- 農商工連携インターンシップ2019（8月1日～8月3日）
- 第50回じゃんこい魚津まつり（8月2日～8月4日、8月7日）
・50回記念魚津まつり特別市民協賛特大スターマインに、企業・団体19社、個人95名、匿名の方も含めて全部で49万円あまりのご寄附があった。
（説明内容は別添プレスリリースのとおり）

3. 質疑応答の内容

「魚津市行財政改革説明会」について

《記者からの質問》

財政健全化に向けての方策について、行財政改革推進委員会では2案提示されていて、それに限るものでないとのことだったが、行財政改革説明会では、どの程度

まで踏み込んだものを提示されるのか。

《回答》(企画総務部長)

現在、内部で方策案を固めている途中であるが、行財政改革推進委員会からは、最低でも1案、それよりも更にあればという意見をいただいたところである。ひとつの案だけ示すのか、複数の案で、それぞれどういった影響があるなどの示し方が良いのかなど、最終的に具体的な方策についてまとめているところである。25日にはそれをまとめたものを示したいと思っている。

《記者からの質問》

その案というのは、事前に発表があるわけではなく、市民説明会のときに始めて示されるということになるのか。

《回答》(企画総務部長)

議会でも説明してきているので、議会にこのように示しますと事前に説明する形になる。概ね4回の委員会が出た案をベースに示すことになると思う。

また、市民に説明する前に、内容に変更等が生じれば、推進委員にも予め報告することとしている。

「魚津市パークマネジメント基本方針」について

《記者からの質問》

この基本方針をうけて、公園のマネジメントプランを策定していくことになると思うが、具体的なプラン作りについて、策定の目標年度などはあるのか。

《回答》(市長)

少なくとも個別の公園に手を入れていくのを来年度からとすると、全部作るかは別として、今年度中に個別の公園マネジメントプランは作っていく必要はある。

今年度中にマネジメントプランに着手するという言い方が正確である。

《記者からの質問》

来年度から事業を順次進めていくということか。

《回答》(市長)

イメージとしてはそのとおりである。その進度はまだわからない。公園の中には劣化した遊具などもあるため、いつまでも待ってもらわなければならない部分もある。必要な部分はしっかりやっていく必要がある。

《記者からの質問》

富山市の公園や、県の環水公園など、富山県の公園整備は全国的にも注目されているところであるが、魚津市のプランについて、市長として考えていることはあるか。行財政改革のなかに該当しているものもあるかもしれないが、そうではない部分で、もう少し打ち出しを強くして特色のあるものを考えているのか。それとも今ある現状のものを維持していくものになるのか。

《回答》（市長）

公園の役割、意味合いとしてコミュニティを再生する場ということを目指している。そのときにどういう機能なり空間であればよいかをよく考えている。それを今回の基本方針をプランにするなかで具体化をしていきたいと思っている。幅広い年代の人が集まる場所もあればいいと思うし、そうではなくて、利用ニーズが違う方々にターゲットを絞って利用してもらおうという視点も必要になると思う。市内は狭いといっても広いので、そのあたりをどのように配置していくかは、現実としては課題になる。その点はしっかり考えて生きたいと思う。

《記者からの質問》

新たな協働体制づくりのなかで、地域の住民の方ということは分かるが、民間との協働というのは、具体的な公園を想定しているのか。

《回答》（市長）

街区公園を民間でということはないと思う。全体になるのか一部になるのかということはあるが、総合公園を念頭に置いた話になると思う。

「浄化センター付近に出没したクマの捕獲等」について

《記者からの質問》

今回のクマの件についてお願いします。

《回答》（市長）

今回のクマの件について、考えなければならなかったこととして、ひとつは情報伝達、情報発信・連絡について、少し遅かった面があると思う。

発見された時刻や、クマがそこに来ているということはもっと早く分かっていたので、第一報としてしっかり伝えることをやっていかなければならないと思う。防災行政無線が、運用として（水害等の非常事態以外は）午前7時までは使用しないという考え方があるなかで、蜃気楼の情報は流れてもクマの情報が流れていないことがあった。事案の重大性、命に係るような情報はしっかり早めに伝えるということを心がけなければいけないと思った。

また、今回クマが逃げ込んだ場所は、9年程前に同じようなクマの騒動があったときに、クマが逃げ込んだ場所と同じ場所である。前回は、2日捜索したが発見できずに街のなかにクマが出て行ったということがあった。そういう意味で、この場所を管理する企業の方と話をしたが、この場所について、今後、万が一今回のようなことがあっても、クマを発見しやすいように、より管理を適性にしていくことを考える必要があるということ現場で話をした。企業の方もそのように考えているとのことであった。今後はそのあたりの話をしていきたいと思っている。

《記者からの質問》

9年前にも同じことがあった場所とのことだが、9年の間はあったが2回続けて

同じようなことあったということは、クマが山から下りて市街地に入ってくるルート、クマの生態を研究している方に相談し、そのルートを閉ざすなどして、抜本的に防ぐ方法はあるのか。

《回答》（市長）

非常に難しい面はある。クマのルートとしては、川沿いや側溝など人目に付かないような暗いところを通ってくるといわれている。河川については、県が河川内の雑木除去を行っているが、小さな水路や小川については、抜本的に対策を行うことは難しいと思う。そのような意味で、クマが降りてくるのを防ぐことは、実際問題としては困難なところがあると思っている。よくいわれることであるが、民家や事業所が周りの樹木をしっかりと管理するなどの話に行き着くことになる。そういう取組を、地域をあげてやっていくしかないと思う。

今回の場所では、クマがいることが分かっているのに捕まえないということが、住民を不安にさせたので、そのようなことを解消したいという意味で、先ほどあの場所の適正管理のことを申し上げた。1日、2日と長くかかっていくことは市民のにとっては大変不安なことであるし、居るのが分かっている、なぜ、すぐに捕獲できないのかということになってくるので、そこを少しでもスピーディーに対応できるようにということで、管理している企業に対策を考えていこうと言っている次第である。

《記者からの質問》

分かりやすくいうと、雑木林を野放しにしないとか、柵をどうするかということか。

《回答》（市長）

そのとおりである。今回、雑木林のなかで、草刈りをしていた職員や関係団体の方が蜂に刺され病院に行くようなことがあった。そのような状況では、捕獲作業そのものにも影響を与える。そういう環境を少しでも改善していく必要があると思う。

《記者からの質問》

黒部市からの連携体制はどうだったのか。仕事上、クマ情報のメールがあった時点で、経田や黒部の石田に車で周ったが、クマのパトロールはしていなかった。クマがいるのは分かっているのに、それはどうなのかと思ったが。

《回答》（市長）

そういった連携体制も重要になってくる。そういった点を含めて対策を考えていきたいと思う。

《記者からの質問》

魚津からのクマ目撃情報の「大島キャンプ場でクマがでました」とメールに関しては、黒部からの連絡はあったのか。

《回答》（産業建設部長）

黒部の石田で目撃されたという情報はいただいている、魚津市の職員も現場のほうに向かった。

《記者からの質問》

夜に魚津市からメールがあったと思うが、確認をしたうえでメールを流されたということでしょうか

《回答》（産業建設部長）

そうである。私たちは別の会合の場所にいたのでそこには携帯電話で連絡があった。